

## ■トピックス

# VR 文化フォーラム

## 「VR とミュージアム」

大谷智子 (東京大学)



2012 年 2 月 24 日 (金), 東京都江戸東京博物館 (東京都墨田区両国)において, 日本映像学会デジタルメディア研究会, 日本 VR 学会デジタルミュージアム研究委員会, そして, 情報技術と文化の融合調査研究委員会との共催により, VR 文化フォーラム「VR とミュージアム」が開催された。

江戸東京博物館は, 江戸東京 400 年の歴史と文化を展示する施設として, 平成 5 年 3 月 28 日に現在の地に開館した。館内の常設展示室は, 江戸ゾーンと東京ゾーンに大きく分かれており, 各時代の, そこに暮らす人びとの生活を楽しみながら学ぶことができる。このリアリティあふれる展示が, この博物館の大きな特徴であり, 1 年間の常設展示来館者数が約 80 万人にのぼるのも頷ける。

今回の文化フォーラムは, まずは基調講演とトークセッション, その後, 見学ツアー, そして懇親会という構成であった。フォーラム全体司会は苗村健氏 (東京大学准教授), トークセッション司会は大谷が行った。年度末の繁忙期であるにもかかわらず, 企業や省庁からの参加者も多く, また, 学術界からの参加者には VR 分野以外の専門家もおり, 当該テーマに対する期待の高さが窺われた。

小澤弘氏 (江戸東京博物館都市歴史研究室室長) による基調講演「江戸東京博物館開館準備期の模型と映像制作秘話」では, 博物館開館までのご苦労や, リアリティ

のある展示物とはなにかと試行錯誤な点について語って戴いた。普段は聞くことのできない貴重なお話に, 質疑応答では, 参加者の関心の高さが見受けられた。つづいて, 米山勇氏 (江戸東京博物館研究員) と廣瀬通孝氏 (東京大学教授) による「街歩きと VR」トークセッションが行われた。廣瀬氏は, 「VR と東京駅」というテーマでの講演であった。東京駅が建設されたことによる都市構造の変化について触れ, この変化を追体験できる現在のデジタルミュージアム技術について紹介した。米山氏は「私の好きな東京ブラタても with けんちく体操」と題し, 参加者も建築物の外観, 構造や用途, 個人的に抱いた第一印象などを身体で表現しながら, 東京にある建物の魅力を再発見する楽しさを, 時折クイズ形式で語ってくださった (下写真中央は, けんちく体操の様子)。まとめのパネルディスカッションでは, ミュージアム展示における展示技術の可能性について聴衆を交えた活発な議論がなされた。シンポジウム後のツアーは, 常設展示と東京スカイツリー完成記念特別展示「ザ・タワー ~都市と塔のものがたり~」の見学であった。小澤氏の講演で紹介された細やかな展示の工夫を探しながらの見学は, とても好評であった。懇親会では, 両国名物のちゃんこ鍋に舌鼓を打ちつつ, VR 技術と文化の融合について有意義な議論が交わされ, 盛況な会となった。

最後に, 東京都江戸東京博物館の関係者の方々に厚く御礼申し上げる。

